

バーベキュー台の寄付に感謝して 奥伊吹観光株式会社に感謝状を贈呈 (10月6日)

グリーンパーク山東の指定管理者である奥伊吹観光株式会社から、屋外バーベキュー台を10台寄贈いただいたことに伴い、草野丈治社長に感謝状を贈呈しました。

バーベキュー台が新調されて施設が充実したことで、今後の観光客の集客につながることを期待されます。

市民のみなさんも、三島池の紅葉狩りを楽しみながら、秋の味覚のバーベキューに舌鼓を打たれてみてはいかがでしょうか。



手から手へ、全国で元気の橋渡し 「まい・バーラ」が出発(10月6日)

近江公民館のキャラクター「まい・バーラ」の人形が、人の手から手へと渡りながら全国を旅することとなり、米原駅西口の円形広場で出発式が行われました。

この企画は、公民館講座で布遊びの講師をされている甲斐沼京子さんが「人形を通じて人がつながり、全国が元気になれば」との思いで発案されたもので、出発式では甲斐沼さんから俳優の赤井英和さんに手づくりの人形が手渡されました。人形は旅ノートの入ったリュックを背負っていて、受け取った人がメッセージを書いていくそうです。今頃、まい・バーラはどこを旅しているのかな。



今年も地域の秋祭りが市内各地で盛大に行われました。その一つ、米原曳山まつりの「子ども歌舞伎」は、稽古から祭礼の三日間にわたって観て回りましたが、上演を重ねるごとに上達していく子ども役者の自信に満ちあふれた演技とそのたくましさに感動したところです。

若連中や世話方の皆さんには、少子化が進行する中、子ども役者の確保や経費の捻出など、多くの課題を乗り越え立派に執行されたことに心から敬意を表します。子どもたちにとっても、長期間にわたる稽古に励んで多くの観衆の前で堂々と演じた経験は一生の思い出となり、ふるさと米原を誇りとして、いずれは祭りの運営や地域貢献に活躍してくれるものと期待を寄せるところです。

市内には、ほかにも古くから伝わる地域の祭りがありませんが、これらは地域社会を営んでいく上で必要な「地域の絆」を維持するための重要な役割を果たしてきたものと考えられます。

時代の流れとともに社会構造が変化し、個人主義とも言える風潮が大勢を占めつつある中、伝統行事の継承には課題が山積していますが、東日本大震災でもその重要性が見直された「地域の絆」を強める伝統的な祭りが未永く受け継がれていくよう、互いに知恵を出し合いながら応援していきたいと思えます。



米原市長 泉峰一

(11月1日記)